

令和7年度 京都大学一般選抜 出題意図等

国語（文系）

- ・「出題意図等」とは、出題意図または標準的な解答例のことです。
- ・入学試験問題の満点や配点については、試験問題に記載のとおりです。
- ・各学部における個別学力検査の配点については、一般選抜学生募集要項に記載のとおりです。
- ・標準的な解答例については、ここに示す表記に限るものではありません。
- ・「出題意図等」についての質問および問い合わせには対応いたしません。

出題意図 国語（文系）

大問一

出題意図（問題一全体）

問題文は、一九六〇年代の時点での「現代」における「都市化」の進行を題材とし、それが人間の心のありように及ぼす見えざる影響について考察した文章である。展開されている考察を論点に沿って的確に理解し、その理解を明晰で統御された表現によって述べる力を問う。

出題意図（個別問題）

問一：かつての都市が「かわいらしいもの」であったという筆者の表現が意図するところを、都市について筆者が記しているさまざまな叙述を手がかりに理解し、的確に表現することを求める。

問二：筆者が本文において「都市化」をどのようにとらえているかを正しく理解した上で、そこでの人間と自然の関係について、「疎外」という語で何が言い表されているかを明確に説明することを求める。

問三：「大地の感覚」という筆者の表現の意味を的確に理解した上で、これと「自己の存在」との関係をめぐる筆者の考察を適切にまとめ、明確に説明することを求める。

問四：筆者が友人の言葉への「同感」をもとに展開している考察の理路をきちんとたどり、その全体を適切な言葉で明確に表現することを求める。

問五：「都市化」が人間と自然、および他の人間たちとの関わりに及ぼす影響をめぐる筆者の考察について、本文全体を振り返ってその全体像を再構成し、それを的確な言葉で表現することを求める。

大問二

出題意図（問題二全体）

問題文は、筆者が自らの読書経験に基づいて、物語を読むことの意義や、言葉・文学の力をめぐる議論についての思索を展開したものである。読書や物語について、筆者がどう考えているのかを正確に把握し、設問にそってその理解を的確に表現する力を問う。

出題意図（個別問題）

問一：傍線部の比喻表現を本文に示された読書観に即して自分なりに理解し、適切に言語化して説明することを求める。

問二：優れた物語において人間はどのように扱われると筆者が考えるのか理解したうえで、傍線部の「倫理をはぎとった状態で」とは何を指すのか説明することを求める。

問三：読書の効用をめぐる本文中の複雑な議論を把握したうえで、読書の効用と読書の楽しみの関係について、問いに即して明確に説明することを求める。

問四：「言葉／文学は無力か」という湾岸戦争時の文壇での議論に筆者が感じた違和感を正確に読み取り、適切に言語化して説明することを求める。

問五：「言葉や文学が無力であるわけではない」という筆者の主張について、なぜ筆者がそう考えるか根拠を整理したうえで、適切に言語化して説明することを求める。

大問三

出題意図（問題三全体）

問題文は、源義経の生涯を描いた軍記物語『義経記』のうち、主として義経の北の方の心情を物語る場面である。古語および古典文法の基本的な知識に基づいて、本文を正確に読解した上で、現代語訳や内容説明を的確に行う力を問う。

出題意図（個別問題）

問一：傍線部が誰の発言であるか理解した上で、「人」が指すものを明らかにしつつ、文意が明確になるように現代語訳することを求める。

問二：どのような場合に、誰が、何を「後悔」するのか、本文から読み取った上で、傍線部をわかりやすく説明することを求める。

問三：「いつしか変はる心」の具体的な内容を本文から読み取った上で、傍線部をわかりやすく説明することを求める。

問四：北の方の発言の締めくくりにあたる傍線部について、北の方の置かれた状況や心境を理解した上で、わかりやすく説明することを求める。

問五：基本的な形容詞や助詞・助動詞の意味・用法、用言の活用形などを正確に理解した上で、和歌に込められた心情が明らかになるように現代語訳することを求める。